【市民タイムス　令和５年（2023年）７月２７日（木）】

蘇南高生が救急活動率先

木曽広域消防本部　交通事故で６人に感謝状

石其消防長（前列左）から感謝状を受け取った生徒たち

南木曽町の蘇南高校の3年生6人が、交通事故現場でけが人を素早く救護し119番通報をして救急活動に協力したとして26日、木曽広域消防本部から感謝状を贈られた。同校を訪れた石其（いしその）正消防長は6人の「勇気ある行動」をたたえた。

大畑竣平さん、木村美桜さん、佐々木ゆりかさん、常盤井湧之介さん、橋詰翔さん、山田紗妃さんが受けた。

事故は5月15日午後5時ごろに同町読書の国道19号であり、赤信号で止まっていたオートバイにタクシーが追突した。当時は雨が降っていた。下校途中で現場に居合わせた6人は、地面に倒れ込んだオートバイの男性に自分たちの傘を差してぬれないようにした。119番通報もして救急車が来るまで寄り添い、救急隊の活動中も隊員らに傘を差し続けた。男性は骨折していたが命に別条はなかった。

学校の全校集会で感謝状の贈呈式があった。橋詰さんは「（バイクの男性が）腰を押さえて倒れたので『行かないと』と思った」と話し、佐々木さんは「声を掛け合い通報し、傘もお互いに差し合った」と当時の様子を振り返った。

石其消防長は「大人でも『見て見ぬ振り』をしてしまう人もいる。頼もしい行動で、皆さんのように困った人に手を差し伸べられる人が増えてほしい」と述べ、感謝していた。（大嵩崎慧）